

令和4年度 研究助成 成果報告書

一般財団法人新潟県建設技術センター理事長 殿

令和5年1月10日

特定非営利活動法人徳合ふるさとの会
代表 塚越 秋三

研究助成事業を下記の通り報告いたします。

記

1. 申請者名 特定非営利活動法人徳合ふるさとの会
代表 塚越 秋三
2. 申請事業名 環境整備と野生動物との共生に関する事業
3. 事業の目的

会の活動の本拠である徳合は他の中山間地域同様、高齢化により住民の意欲低下が著しく、いつか故郷が消滅してしまうのではという心配があった。

「魅力ある地域を作り、高齢者にも希望を持ち生き生きと過ごしてほしい。

若い地元の人にこそ地域に愛着を持ってもらい、人口流出の抑制をはかりたい」という思いで、20年前から集落内各所に枝垂れ桜を植樹して地域の魅力づくりを行ってきた。

国土交通省から「しだれ桜の咲く里への回り道」として日本風景街道の認定を受け、地域の魅力づくりに向けた活動を続けている

現在、徳合には年間に約3000人が県内外から訪れるようになったが、クマやイノシシ等の鳥獣被害が観光面でも生活面でも大きな課題となっている。

当事業で鳥獣被害防止のための緩衝地帯を集落と山地との間に再生し、そこに枝垂れ桜や山桜を植樹して、電気柵だけに頼らない鳥獣被害防止策のモデルケースとして取り組むとともに、ふるさとの再発見や地域活性化、観光資源としての一層の魅力アップを目指す

4. 課題を解決するために取り組んだ活動

- ・集落と山地の間の不要木を伐採
- ・下草刈り
- ・桜の剪定

5. 事業の実施結果

活動実績報告

4月～11月 伐採と木材の搬出・下草刈り

7月～8月 葛葉ツルの処理

I 不要木伐採・間伐・搬出・野焼き

令和3年に鳥獣被害防止の専門家である長岡技術科学大学山本麻希先生から、徳合地域における鳥獣被害対策についてアドバイスを受け、それに基づいた対策を3年計画で実施することとしている

- ・重点箇所の設定（集落北東「中屋地区」）

山本先生のアドバイスでは、徳合は集落の中に川や用水路が多く、そこを伝って各方面からイノシシ等が侵入しやすい地形となっているとのことである。集落全体の対策を一度に取り組むことは難しいため、まずは、集落北東の「中屋地区」に集中的に取り組み、野生鳥獣と集落の緩衝帯となる場所を整備することを当面の目標として取り組むこととしている

令和4年度も、昨年に引き続き同地区の杉林の伐採、下草刈りなどの緩衝帯整備活動を実施した

・集落外周の林・藪の伐採

集落の外周にはうっそうとした杉林が多く、景観を阻害する一因となっている。また、山本先生によれば、放置された杉林が屋根や雪よけとなることでイノシシなどが居着く場所となり、集落の近辺にイノシシなどが増えることにつながっているとのことである

今期も昨年に引き続き、杉林の徹底した伐採を進めた

しかし、一度に伐採してしまうとすべり面のストッパーとなるものがなくなり、土砂崩れがおきやすくなるおそれがある。伐採後には植樹などにより、すべり面のストッパーとなるものを整備する必要があるため、計画的に進めている

・下草の伐採

イノシシは藪が格好の隠れ場所となるため、伐採や枝払いを行い、見通しの良い状況を作ることが、鳥獣を集落に近寄らせないことにつながる

また、鳥獣対策として電気柵を設置しているが、このワイヤーに雑草等が絡むと電圧が低下し本来の効果を発揮することが出来ない。

鳥獣を近寄らせない、集落に侵入させないためにはこまめに下草刈りを行うことが重要となる

・伐採した樹木等の搬出、野焼き

伐採した樹木は、搬出し処分することを基本としているが、活動により枝や木くずなど搬出しきれないものも発生している

伐採後、搬出困難なものについては、都度、消防署に野焼き許可申請を行った上で、現地で焼却処分している

・葛葉つるの処理

計画では、今期は葛葉つるの処理に除草剤を使用する予定としていたが、葛葉つるの繁茂がひどく、今年は除草剤の使用を見送ることとした

今期は昨年と同様、人海戦術で処理を試みた。しかし、葉や茎をいくら除去しても、根からすぐに伸びてきてしまう状況に変わりなかった

来年は、除草剤が適切なのか、それとも他に方法があるのかなどの情報収集を行った上で、葛葉つるへの人海戦術以外の対処を試してみたい

Ⅱ 景観の向上

・桜の植樹（準備）

当初計画では、春から夏にかけ伐採を進めつつ、その後には土砂崩れ防止と景観向上のため、秋にしだれ桜や山桜を植樹することとしていた。しかし、桜の植樹は秋に行うよりも春に行う方がより根付きが良いと見込まれることから、令和4年度は伐採を重点的にを行い、桜を植樹する土地づくりを行った。桜の植樹は、令和4年秋は見送り、令和5年春（4月～5月）に行う予定とし、今期は植樹するための桜の準備を行った。

- ・桜の木の剪定

桜の木は、病気などになりやすいため剪定は慎重に行う必要がある。一方、枝の周りに絡むように伸びる枝や、すでに枯れている枝などは、放置していると他の枝を傷つけてしまう、病気の原因にもなってしまうということもあるため、桜の健康を保つために、適切に行う必要がある

今期も、消毒したハサミを用いるなど慎重に対策をして、桜の剪定を行った

6. 事業の実施により達成した成果の具体的な内容

下草刈り、伐採を行い、鳥獣の隠れ場所が減ってきているが、継続して行わなければすぐに草や木が生い茂ってしまうため、なかなか進捗は思い通りにならない。

この地で住み続けるには途切れることなく、環境整備活動を続けることが必要だと感じている。

しかし、景観を阻害している杉の木の伐採が進み、その後に桜を植樹することにより、将来的に今以上の魅力ある場所となる下地づくりが進んでいる。

今後も活動を継続し、中屋地区だけでなく徳合地域全体の鳥獣対策、魅力向上につながるよう努力したい。

7. 来年度以降どう事業を継続、発展させていくか

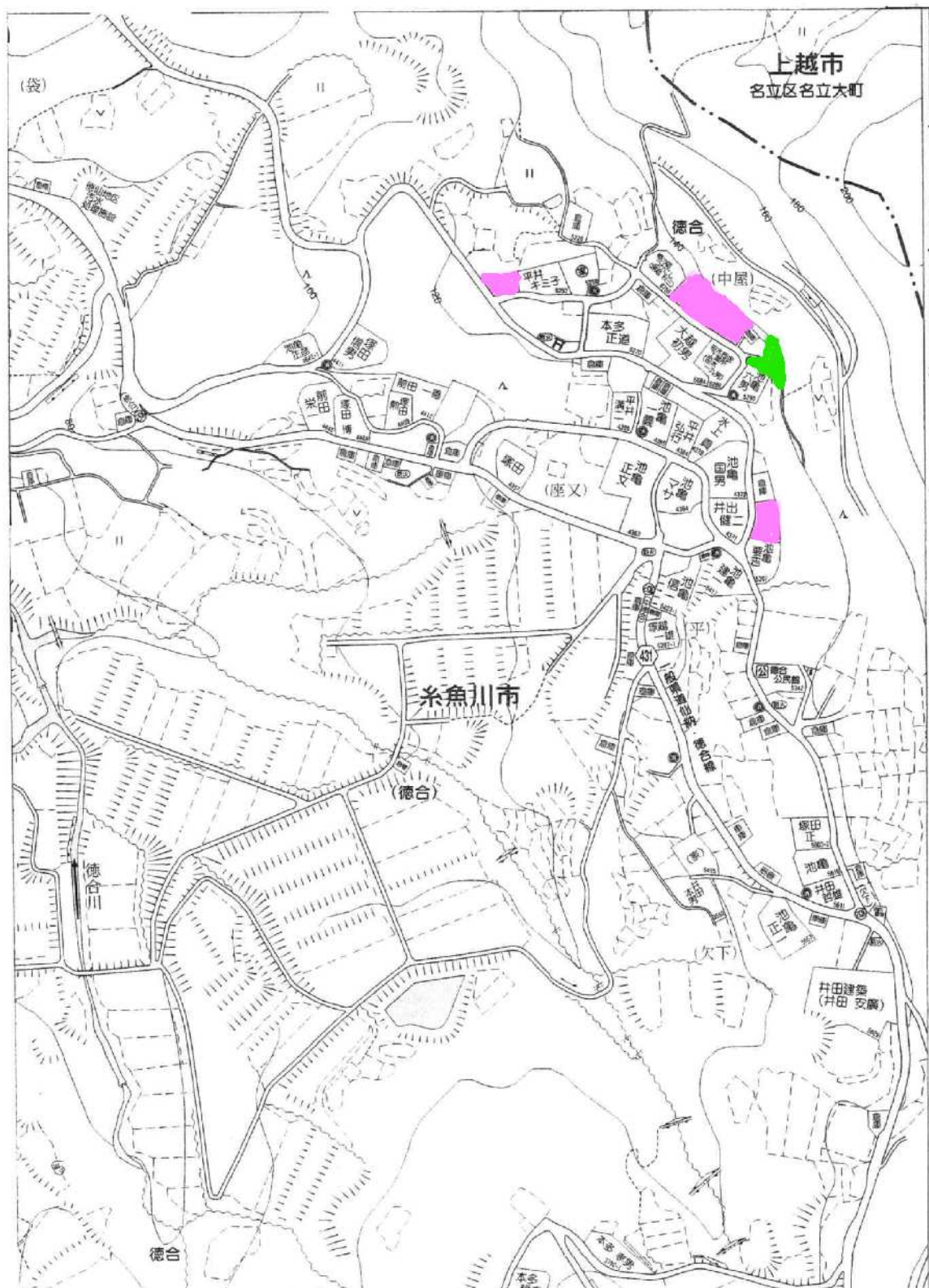
今期までの活動を継続し、地域の環境整備の下地作り（下草刈りや不要木伐採・間伐）を春から秋にかけて実施する。その上で、長岡技術科学大学 山本麻希先生に、これまでの取り組みや実績を踏まえ、来年度以降の活動に向けたアドバイスを求め、事業の目的である鳥獣被害防止のための緩衝地帯を集落と山地との間に再生、そしてふるさとの再発見や地域活性化の実現を図りたい。

100年後の徳合の未来のために、
住民の方々の意識改革、継続的な取り組みを呼びかける。

令和4年度 活動実績

下草刈り

下草刈りと伐採



不要木伐採・間伐・搬出・野焼き



家の周りの不要木を伐採し、鳥獣が
寄り付かない環境にしておく

密集した林の間伐を行った。
光が入り込み、鳥獣の隠れ場所が
なくなり、景色が見えるようにな
った。





クヌギの木

クヌギの実を食べにイノシシが集まってくる。
この周辺にビニールハウスがあるので木を倒す
ことが出来ず、枝を落とすこととした



密集している林より、間伐を
行い、枝を落としていているところ



伐採後、搬出困難な枝や木屑は消防署の野焼き許可申請
を提出し、現地で焼却処理している

下草刈り



耕作放棄地など、藪を刈り払って見通しを良くし、鳥獣の隠れ場所を無くす環境を作ることが鳥獣被害を減らす第一歩。

こまめに下草刈り行うことが大事。